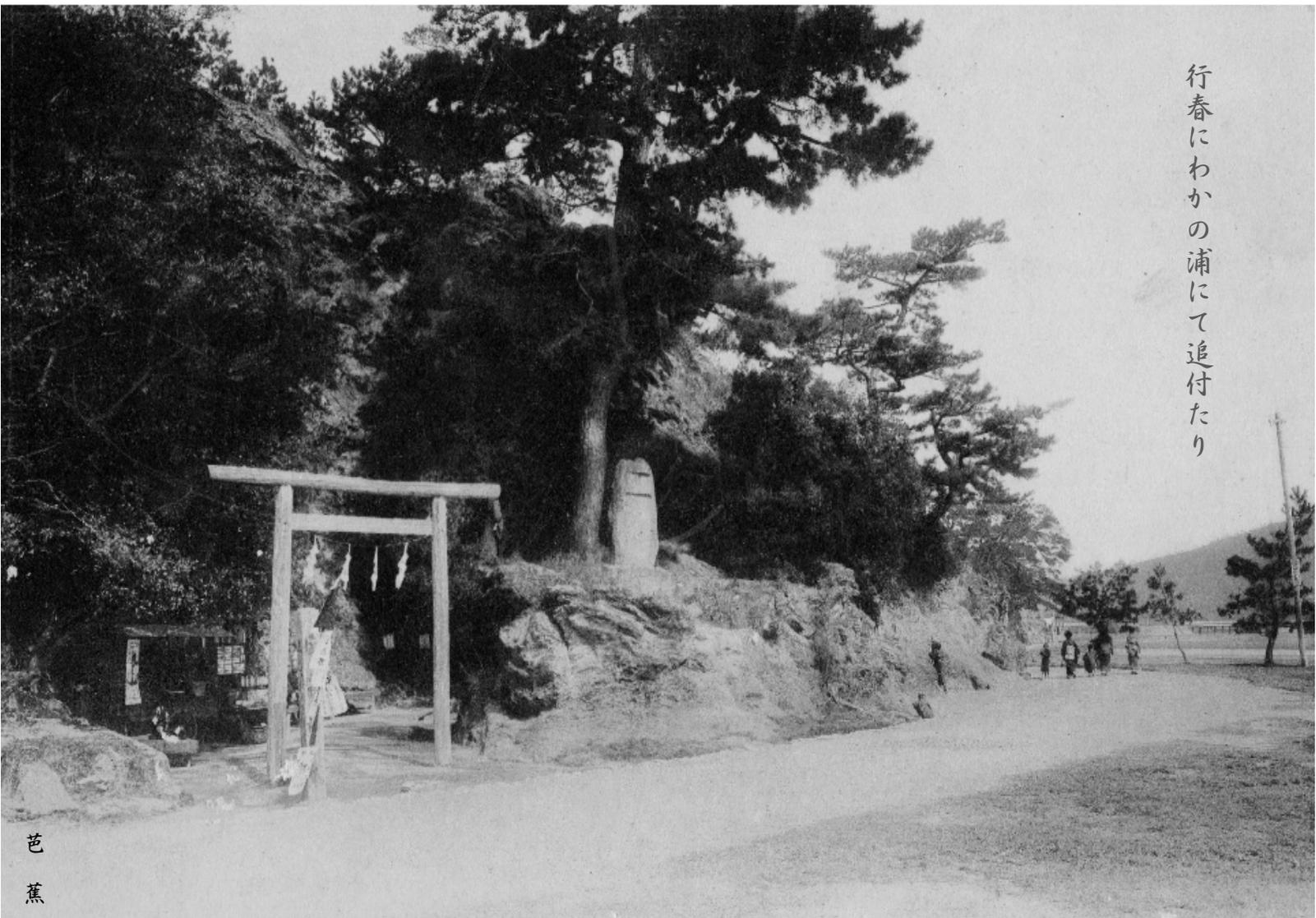


西行の和歌における、宗祇の連歌における、雪舟の絵における、利休が茶における、其の貫道する物は一なり。
—中略— 和歌 行春にわかの浦にて追付たり きみ井寺 跪はやぶれて西行にひとしく、天龍の渡しをおもひ、
馬をかる時はいきまきし聖の事心にうかぶ。山野海濱の美景に造化の功を見、あるは無依の道者の跡をしたひ、風
情の人の実をうかがふ。

笈の小文

行春にわかの浦にて追付たり



芭蕉

西行の歌の心を求めむと 小夜の中山や天竜の渡しをへて かの人が望んだ花の盛りに
吉野に結んだ庵あとをたづねた 吉野から熊野までかの人の念ひを偲び 労苦を我が身
に重ねつつ旅をし 山野海濱の風光に親しんだ そしてようやくここ和歌の浦に至って
聖とも 道者とも はたまた風流の人ともいふ 行く春のごとくに慕はしい かの人の
心の奥の実相に ようやく近づいたようだ